

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	サービス利用見込量
現状と課題	
<p>令和3年度の給付実績を第8期高齢者保健福祉計画における見込みと比較した結果、概ね計画値どおりとなっている。定期巡回・随時対応型訪問介護看護及び介護療養型医療施設については、計画値との差があるものの利用者数が少ないため差異が生じやすいものと考えられる。</p>	
第8期における具体的な取組	
<p>必要に応じ事業開始の検討ができるよう相談体制の充実に努めるとともに、引き続き適切な介護サービスの利用がなされるよう介護事業者や利用者に周知を図る。 利用実績やアンケート調査等の手法により介護サービスに対するニーズ把握に努める。</p>	
目標（事業内容、指標等）	
<p>第8期高齢者保健福祉計画に基づく介護サービスの給付</p>	
目標の評価方法	
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none">■ 中間見直しあり□ 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">サービス見込み量の進捗管理のための作業シートによる	

取組と目標に対する自己評価シート
(サービス利用見込量)

年度

令和3年度

後期(実績評価)

実施内容

地域包括ケア「見える化」システムを活用し、本市における受給率や受給者1人あたり給付費を全国平均や人口規模が同程度の近隣市と比較・検証した。

自己評価結果

【○】

介護サービスの受給率は平均より比較的低位が、受給者1人あたり給付費が平均より高い傾向であると確認した。

課題と対応策

【課題】高齢者単身世帯や高齢者世帯の増加により介護給付費が増加している。

【対応策】令和4年度は、高齢者保健福祉計画に係るアンケート調査によりニーズ等を把握し、サービス整備について検討を行う。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	自立支援、介護予防又は重度化防止
現状と課題	
<p>本市の要支援・要介護認定率は増加傾向にあるものの、全国・愛知県と比較し、低い値で推移している。また、近隣市町と比較し高齢化率は高いものの認定率は低く、重度・軽度認定率もともに低い水準である。</p> <p>一方で、要支援・要介護認定者数は今後も引き続き増加すると見込まれ、令和2年度に実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、一般高齢者であっても認知機能の低下等のリスク該当者が多いため、その前の予防・支援が重要である。</p> <p>【仮説】本市の健康都市の取組において筋トレ体操や認知症予防等の介護予防事業を推進しているからではないか。</p> <p>【検証結果】介護予防教室参加者の改善割合を確認→参加者の満足度も高く、改善割合も向上している。</p>	
第8期における具体的な取組	
<p>介護予防事業に一定の効果があると考えられるため、更なる推進を図る。</p> <p>らくらく筋トレグループへ専門職を派遣し、病気の発症予防と重度化予防の取組を進める。</p>	
目標（事業内容、指標等）	
<ul style="list-style-type: none">・一般介護予防教室参加者の改善割合 80%・一般介護予防事業参加者数（専門職派遣事業参加者数も含む）1,000人	
目標の評価方法	
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none">■ 中間見直しあり□ 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・改善割合は向上しているか。・参加者数は増加しているか。	

取組と目標に対する自己評価シート
(自立支援、介護予防又は重度化防止)

年度

令和3年度

後期（実績評価）

実施内容

- ・筋トレ教室等、市民運営の通いの場にリハビリテーション専門職を派遣した。
- ・職員出前講座や広報・パンフレット等を活用した介護予防知識の普及・啓発を行った
- ・介護予防事業参加延人数（一般介護予防事業） 113人
- ・集いの場等数（市民・民間が主体となっている場 筋トレグループも含む） 80か所

自己評価結果

【△】

- ・一般介護予防教室参加者の改善割合 【R2】 78%⇒【R3】 76%（-2%）
参加者の改善割合の減少については、新型コロナウイルス感染予防のため教室中の自宅での運動が制限され、外出機会も減少したことによりあまり伸びなかった。
- ・一般介護予防事業参加者数 【R2】 886人⇒【R3】 994人
参加者人数に関しては、新型コロナウイルス感染対策を行いながら教室を継続したこともあり参加者人数が増加した。

課題と対応策

参加者数は増加したものの、目標値に達していないことから、家にいながら介護予防を効果的に実施できる方法について、引き続き検討が必要である。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護給付適正化
------	---------

現状と課題
<p>本市の受給率は、全国・愛知県と比較し低い値で推移しており、認定率が低いことが要因の一つと思われる。</p> <p>住宅型有料老人ホーム入居者へサービス提供をしている訪問介護事業所における1人あたりの給付費が他の地域と比べて高い。</p> <p>介護保険制度を持続可能なものとするため、引き続き介護給付適正化の積極的な取り組みを進める。</p>
第8期における具体的な取組
<p>認定調査状況チェック ケアプランチェック 住宅改修実態調査 医療情報との突合・縦覧点検 介護給付費通知</p>
目標（事業内容、指標等）
<p>ケアプランチェック体制の充実及び職員のスキル向上を目指すとともに、介護給付適正化主要5事業についての効率化を進める。</p> <p>介護保険指定事業者講習会を開催し、適正なケアプランについて説明し、事業所への周知を図る。</p>
目標の評価方法
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none">■ 中間見直しあり□ 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">介護給付適正化実施状況調査に準拠し評価する。

取組と目標に対する自己評価シート
(介護給付適正化)

年度	令和3年度
----	-------

後期（実績評価）

実施内容

- ・認定調査状況チェック 2,687件
- ・ケアプランチェック 10件
- ・住宅改修実態調査 53件
- ・医療情報との突合・縦覧点検 12件（毎月1回）
- ・介護給付費通知 2回

自己評価結果

【○】

住宅改修及び福祉用具の現地調査については取組みを強化した。
介護給付適正化事業を適切に実施した。

課題と対応策

【課題】 1人あたりの給付費が他の地域と比べて高い。

【対応策】 ケアプランの点検について、介護給付等に要する費用の適正化を促進するとともに、ノウハウの共有を行う。